

厚生労働科学研究費補助金

がん対策推進総合研究事業

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究

令和元年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 田村 研治

令和元年（2020年）5月

# 目 次

## I. 総括研究報告

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究

田村 研治 3-9

## II. 分担研究報告

1. 土原一哉 ----- 11
2. 高橋俊二 ----- 12
3. 古川洋一 ----- 13
4. 川上尚人 ----- 14
5. 佐治重衡 ----- 15
6. 矢野聖二 ----- 16-18
7. 植竹宏之 ----- 19
8. 林田哲 ----- 20
9. 吉原弘祐 ----- 21
10. 清水千佳子 ----- 22
11. 加藤雅志 ----- 23

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 24-29

# I . 総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
総括研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究代表者 田村研治

国立がん研究センター 中央病院 乳腺・腫瘍内科 科長

研究要旨 患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPO がん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いる。又、各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェッショナル講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。

3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

## A. 研究目的

近年、個人のゲノム情報に基づき、個人ごとの違いを考慮した「がんゲノム医療」への期待が高まっている。第3期がん対策推進基本計画では、「バイオバンク」、「次世代シーケンスを用いたゲノム解析」、「治験薬と含めた治療選択肢を提示できるゲノムコンソーシアム」などを推進する一方、「がんゲノム医療」に関する国民への理解を促進するための教育や普及啓発が求められている。

現状、「がんゲノム医療」には、患者を中心とした社会一般から多大な期待がなされているが、正確な情報提供が欠如しているため、一般人はもちろん医療従事者の間でも混乱が生じている。商業ベースで宣伝される遺伝子パネルなどの中には低品質のものが散見され、結果が治療選択に反映されないものも多くある。情報は専門用語で示されるため、一般の国民には理解が困難であること、又、テレビ、新聞、SNSを含む膨大な情報や広告の中で、信頼性の高い情報を選別することは困難で、結果としてがん患者が不利益を得ることも少なくない。

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」は、2017年より「がんゲノム医療の推進」を目的として、「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」(座長：日本癌治療学会理事長；北川 雄光)を設立した。活動目標の1つの「社会に対する正しいがんゲノム医療の提供」の実現のために「がんゲノムネット・ワーキンググループ(WG)」を組織した。3学会よりそれぞれ推薦を受けた10名で構成し、2017年10月20日に第1回のWG会議を開催し、現在活動を継続している。

本研究は、この3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPO がん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いる。又、各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェッショナル講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。

3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

患者、患者家族、一般市民に「がんゲノム医療」に関する正しい知識が普及する。次世代シーケンスを用いた遺伝子パネルなどの保険償還や、ゲノム中核病院の指定などが検討される中、適応、関連施設、アクセス、金額などの情報を得ることができる。SNSなどを用いた情報伝達方法が確立され、広く認知されれば、継続的に新しい情報をアップデートすることが可能となり、費用対効果が高まる。日本癌学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会を基盤としているため、がんの最新情報を集めやすく、基礎から臨床にわたる専門家の人的リソースが豊富であり、ガイドラインや、地域情報、会員情報を用いることが可能となる。

「ゲノム治療」と称する誤った情報、エビデンスのない高額な検査法や民間医療が増えてきてい

る。これらの負の情報も適切に公開することにより、がん患者が正しく医療情報・資源にアクセスが可能となり、がん患者の不利益を減少させる。

医療関係者などに対するゲノム講習は、公的研究費を基盤にしたものが複数あるが、「社会に対するがんゲノム医療情報の提供」事業はほとんどない。医学専門用語を避け、コミュニケーション論専門家やその研究班からのアドバイスをふまえ、わかりやすい情報提供に努める。

本研究班がもたらす成果は、「第3期がん対策推進基本計画」で示される、「がんゲノム医療」に関する国民への理解を促進するための教育や普及啓発に直結する。

## B. 研究方法

インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針を決定し、分担執筆者を選定する。出版事業に関しては、書籍名、内容、項目を決定し、出版社、分担執筆者を選定する。市民向けのゲノム講習会や3学会の学術集会内でのシンポジウム、教育セミナー、市民公開講座にて正しいゲノム情報の開示を行う。事業全般において、分担研究者（清水）とその研究班などから、がん患者、患者家族に対するコミュニケーション方法について情報収集し、情報発信に役立てる。

### 1. 会議

がんゲノムネット・ワーキンググループ（田村、土原、高橋、古川、川上、佐治、矢野、植竹、林田、吉原、清水）を開催する。

- 1) インターネットなどを用いた情報配信事業
  - ・情報ツール（NPO がん関連ネット、3学会のホームページ、患者会ホームページ、がん対策情報センター（患者必携）等）の決定
  - ・コンテンツ、各項目の決定
  - ・初期画面、更新画面の運営方針の決定
  - ・分担執筆者の選定

#### ① 出版物

- ・書籍名の決定  
「よくわかるがんゲノム医療（仮称）」など
- ・内容、項目の決定
- ・分担執筆者の選定

#### ② セミナー

- ・市民向けのゲノム講習会開催の計画
- ・内容の決定
- ・演者の決定

#### ③ 3学会の学術集会内でのシンポジウム

- ・教育セミナー、市民公開講座

日本臨床腫瘍学会、日本癌学会、日本癌治療学会のそれぞれの学術集会内において、がん患者、患者家族、市民を対象とした、「がんゲノム医療」のシンポジウム、教育セミナーを開催する。又、各学会の市民公開講座の中で「がんゲノム医療」と、本研究費で計画する「がんゲノムネット」などの情報を公開する。

## 2. 各情報配信業者との打ち合わせ。

- 1) インターネットなどを用いた情報配信事業

### ① NPO がん関連ネット

がん患者・患者家族、市民を対象とした参加型セミナー・イベントを首都圏中心に全国各地で開催している。また、ビデオでの講義動画収録・配信プログラムも充実させている。セミナー・イベントの収録動画とあわせて「がん患者チャンネル」を配信し、動画の視聴総数は280万回を超えている。選定にあつては、他の会社、法人、団体を含め、公的研究費の使用に関する公正性と遵守する。

### ② 3学会のホームページ

### ③ がん患者会のホームページ

### ④ がん対策情報センター（患者必携など）

- 2) 出版社の選定

インターネットなどを用いた情報配信事業を継続する。市民向けのゲノム講習会、及び、学術集会内でのシンポジウム、教育セミナー、市民公開講座を開催する。患者からの声など各事業におけるパブリックコメント、フィードバックを行う。各事業のルーチン化を目指す。

## C. 研究結果

- 1) 第3回「がんゲノム医療ネット」ワーキンググループ会議，第1回 田村班班会議  
2019年9月16日（金）13:00～15:00  
AP 東京八重洲通り 7階「Sルーム」

委員長：田村研治

日本臨床腫瘍学会

矢野聖二

日本癌治療学会

植竹宏之 林田哲

吉原弘祐

日本癌学会

土原一哉 高橋俊二

患者コミュニケーション専門家

加藤雅志

医科学出版社

田村敏彦

認定 NPO 法人 キャンサーネットジャパン

木原康太、後藤悌

ファーマインターナショナル

遠藤昭範

ジーエムジェイ

伊藤晴司

日本臨床腫瘍学会事務局員

多田千春

委員長秘書・研究班会計係

芝田郁美

欠席者 古川洋一 川上尚人 佐治重衡  
清水千佳子

## 2) 3学会合同ゲノム推進タスクフォース

日本臨床腫瘍学会 秋田弘俊 石岡千加史  
田村研治 西尾 和人  
日本癌治療学会 北川雄光 青木大輔  
武藤学 森 正樹  
日本癌学会 油谷浩幸 河野隆志  
間野博行 野田哲生  
事務局 林田 哲

- ・第6回, 2019年6月21日(木) 15:00~17:00  
国際医学情報センター 1階 会議室E
- ・第7回, 2019年9月16日(木) 13:00~15:00  
AP 東京八重洲通り7階「Sルーム」

書籍「よくわかるがんゲノム医療」の出版と、SNSコンテンツ「がんゲノムネット」の開設に向けて、具体的な話し合いを行った。依頼原稿や動画撮影の進捗状況を確認しながら、今後のスケジュールについて確認した。次世代シーケンス遺伝子パネルの保険償還を受けて、よりタイムリーな話題を提供できるように調整した。又、3学会の理事会や学術集会の日程を確認し、理事会承認のプロセスなどを確認した。著者のCOI管理に関しても、日本医学会の指針に則って勧めることが確認された。

## 3) 書籍を用いた情報配信事業

複数の出版会社の中より、「医科学出版社」に選定した。選定にあたっては、他の会社、法人、団体を含め、公的研究費の使用に関する公正性と遵守した。

- ・書籍名「よくわかるがんゲノム医療」と決定した
- ・質問を64項目に厳選した(QA方式)
- ・項目ごとに執筆者を選定し、応諾作業を行った
- ・執筆者に原稿執筆を依頼した
- ・原稿を回収して編集作業を行った
- ・患者の目線からの「分かりやすさ」について、複数の患者会による校正を依頼した。

今後、3学会の理事会による承諾をそれぞれ得て、パブリックコメントを得た上で、令和1年度内の製本、出版を目標とする。公的資金を用いた研究事業という側面から、発売はせずに、3学会の患者・市民向けのイベントなどで無料配布する方針とする。

## 4) SNSを用いた情報配信事業

- ・SNS情報配信業者の選定

「NPO法人がんネットジャパン」

- ・内容、項目、運営方針について検討した
- ・SNSコンテンツ名を「がんゲノムネット」
- ・website開設登録を行った
- ・websiteの画面イメージ、コンテンツ配置の計画、作成を行った
- ・執筆者に原稿執筆を依頼した
- ・執筆者本人による動画撮影をした

今後、3学会の理事会による承諾をそれぞれ得て、平成2年度の開設を目標とする。3学会のホームページから発信を行い、その後、患者会ホームページ、国立がん研究センターがん対策情報センターなどにリンク先を広げていく。今後のコンテンツの改修の時期、作業についても検討する。当該事業に関しては、3学会合同タスクフォースとして、継続的・自立的な運用の実現を目指す。

## 5) 患者、家族、市民を対象とした情報伝達

- ・第27回日本乳癌学会、学術総会、シンポジウム  
2019年7月12日(金) 17:15~19:00  
乳腺専門医とゲノム医療「乳癌におけるゲノム医療の展望」
- ・八番会(乳がん患者会)勉強会  
2019年11月10日(日) 13:00~15:00  
国立がん研究センター中央病院内  
「乳がんにおけるがんゲノム医療」

## D. 考察

令和2年1月から、新型コロナウイルスの影響で研究計画が遅れている。令和2年度に、出版物「よくわかるがんゲノム医療」の刊行とインターネットコンテンツ「がんゲノムネット」をオープンする。

インターネットサイトが軌道にのれば、随時、情報を更新する。

## E. 結論

コンテンツの評価については、フィードバックが必要と考える。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

1. Shiino S, Matsuzaki J, Shimomura A, Kawauchi J, Takizawa S, Sakamoto H, Aoki Y, Yoshida M, Tamura K, Kato K, Kinoshita T, Kitagawa Y, Ochiya T: Serum miRNA-based Prediction of Axillary Lymph Node Metastasis in Breast Cancer. Clin Cancer Res. 25: 1817-1827, 2019.

2. Noguchi E, Tamura K, Hattori M, Horiguchi J, Sato N, Kanatani K, Matsunaga K, Iwata H, Fujiwara Y: Trastuzumab emtansine plus pertuzumab in Japanese patients with HER2-positive metastatic breast cancer: a phase Ib study. *Breast Cancer*. 26: 39-46, 2019
3. Yonemori K, Shimomura A, Yasojima H, Masuda N, Aogi K, Takahashi M, Naito Y, Shimizu S, Nakamura R, Hashimoto J, Yamamoto H, Hirakawa A, Michimae H, Hamada A, Yoshida T, Sukigara T, Tamura K, Fujiwara Y: A phase I/II trial of olaparib tablet in combination with eribulin in Japanese patients with advanced or metastatic triple-negative breast cancer previously treated with anthracyclines and taxanes. *Eur J Cancer*. 109: 84-91, 2019
4. Noda-Narita S, Shimomura A, Kawachi A, Sumiyoshi-Okuma H, Sudo K, Shimoi T, Noguchi E, Yonemori K, Shimizu C, Fujiwara Y, Tamura K: Comparison of the efficacy of trastuzumab emtansine between patients with metastatic human epidermal growth factor receptor 2-positive breast cancers previously treated with combination trastuzumab and pertuzumab and with trastuzumab only in Japanese population. *Breast Cancer*. 26: 492-498, 2019
5. Sunami K, Ichikawa H, Kubo T, Kato M, Fujiwara Y, Shimomura A, Koyama T, Kakishima H, Kitami M, Matsushita H, Furukawa E, Narushima D, Nagai M, Taniguchi H, Motoi N, Sekine S, Maeshima A, Mori T, Watanabe R, Yoshida M, Yoshida A, Yoshida H, Satomi K, Sukeda A, Hashimoto T, Shimizu T, Iwasa S, Yonemori K, Kato K, Morizane C, Ogawa C, Tanabe N, Sugano K, Hiraoka N, Tamura K, Yoshida T, Fujiwara Y, Ochiai A, Yamamoto N, Kohno T: Feasibility and utility of a panel testing for 114 cancer-associated genes in a clinical setting: A hospital-based study. *Cancer Sci*. 110: 1480-1490, 2019
6. Ito T, Kumagai Y, Itano K, Maruyama T, Tamura K, Kawasaki S, Suzuki T, Murakami Y: Mathematical analysis of gefitinib resistance of lung adenocarcinoma caused by MET amplification. *Biochem Biophys Res Commun*. 511: 544-550, 2019
7. Turner NC, Alarcón E, Armstrong AC, Philco M, López Chuken YA, Sablin MP, Tamura K, Gómez Villanueva A, Pérez-Fidalgo JA, Cheung SYA, Corcoran C, Cullberg M, Davies BR, de Bruin EC, Foxley A, Lindemann JPO, Maudsley R, Moschetta M, Outhwaite E, Pass M, Rugman P, Schiavon G, Oliveira M: b-BEECH: A dose-finding run-in followed by a randomised phase 2 study assessing the efficacy of AKT inhibitor capivasertib (AZD5363) combined with paclitaxel in patients with oestrogen receptor-positive advanced or metastatic breast cancer, and in a PIK3CA mutant subpopulation. *Ann Oncol*. 30: 774-780, 2019
8. Hirakawa A, Sudo K, Yonemori K, Sadachi R, Kinoshita F, Kobayashi Y, Okuma HS, Kawachi A, Tamura K, Fujiwara Y, Rubinstein L, Takebe N: A comparative study of longitudinal toxicities of cytotoxic drugs, molecularly targeted agents, immunomodulatory drugs, and cancer vaccines. *Clin Pharmacol Ther*. 106: 803-809, 2019
9. Goto K, Fujiwara Y, Isobe T, Chayahara N, Kiyota N, Mukohara T, Tsubata Y, Hotta T, Tamura K, Yamamoto N, Minami H: Pharmacokinetic study of the oral fluorouracil antitumor agent S-1 in patients with impaired renal function. *Cancer Sci*. 110: 1987-1994, 2019
10. Tamura K, Tsurutani J, Takahashi S, Iwata H, Krop IE, Redfern C, Sagara Y, Doi T, Park H, Murthy RK, Redman RA, Jikoh T, Lee C, Sugihara M, Shahidi J, Yver A, Modi S: Trastuzumab deruxtecan

- (DS-8201a) in patients with advanced HER2-positive breast cancer previously treated with trastuzumab emtansine: a dose-expansion, phase 1 study. *Lancet Oncol.* 20: 816–826, 2019
11. Shitara K, Iwata H, Takahashi S, Tamura K, Park H, Modi S, Tsurutani J, Kadowaki S, Yamaguchi K, Iwasa S, Saito K, Fujisaki Y, Sugihara M, Shahidi J, Doi T: Trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in patients with advanced HER2-positive gastric cancer: a dose-expansion, phase 1 study. *Lancet Oncol.* 20: 827–836, 2019
  12. Yap YS, Lu YS, Tamura K, Lee JE, Ko EY, Park YH, Cao AY, Lin CH, Toi M, Wu J, Lee SC: Insights Into Breast Cancer in the East vs the West: A Review. *JAMA Oncol.* doi: 10.1001/jamaoncol.2019.0620, 2019
  13. Ebata T, Shimizu T, Fujiwara Y, Tamura K, Kondo S, Iwasa S, Yonemori K, Shimomura A, Kitano S, Koyama T, Sato N, Nakai K, Inatani M, Yamamoto N: Phase I study of the indoleamine 2,3-dioxygenase 1 inhibitor navoximod (GDC-0919) as monotherapy and in combination with the PD-L1 inhibitor atezolizumab in Japanese patients with advanced solid tumours. *Invest New Drugs.* doi: 10.1007/s10637-019-00787-3, 2019
  14. Tamura K, Hasegawa K, Katsumata N, Matsumoto K, Mukai H, Takahashi S, Nomura H, Minami H: Efficacy and safety of nivolumab in Japanese patients with uterine cervical cancer, uterine corpus cancer, or soft tissue sarcoma: a multicenter, open-label phase 2 trial. *Cancer Sci.* 110: 2894–2904, 2019
  15. Shimomura A, Yonemori K, Yoshida M, Yoshida T, Yasojima H, Masuda N, Aogi K, Takahashi M, Naito Y, Shimizu S, Nakamura R, Hamada A, Michimae H, Hashimoto J, Yamamoto H, Kawachi A, Shimizu C, Fujiwara Y, Tamura K: Gene Alterations in Triple-Negative Breast Cancer Patients in a Phase I/II Study of Eribulin and Olaparib Combination Therapy. *Transl Oncol.* 12: 1386–1394, 2019
  16. Kubo M, Kawai M, Kumamaru H, Miyata H, Tamura K, Yoshida M, Ogo E, Nagahashi M, Asaga S, Kojima Y, Kadoya T, Aogi K, Niikura N, Miyashita M, Iijima K, Hayashi N, Yamamoto Y, Imoto S, Jinno H: A population-based recurrence risk management study of patients with pT1 node-negative HER2+ breast cancer: a National Clinical Database study. *Breast Cancer Res Treat.* 178: 647–656, 2019
  17. Satomi-Tsushita N, Shimomura A, Matsuzaki J, Yamamoto Y, Kawauchi J, Takizawa S, Aoki Y, Sakamoto H, Kato K, Shimizu C, Ochiya T, Tamura K: Serum microRNA-based prediction of responsiveness to eribulin in metastatic breast cancer. *PLoS One.* 14: e0222024. doi: 10.1371/journal.pone.0222024, 2019
  18. Nakano MH, Udagawa C, Shimo A, Kojima Y, Yoshie R, Zaha H, Abe N, Motonari T, Unesoko M, Tamura K, Shimo T, Yoshida M, Yoshida T, Sakamoto H, Kato K, Mushiroda T, Tsugawa K, Zembutsu H: A Genome-Wide Association Study Identifies Five Novel Genetic Markers for Trastuzumab-Induced Cardiotoxicity in Japanese Population. *Biol Pharm Bull.* 42: 2045–2053, 2019
  19. Sato J, Shimomura A, Kawauchi J, Matsuzaki J, Yamamoto Y, Takizawa S, Sakamoto H, Ohno M, Narita Y, Ochiya T, Tamura K: Brain metastasis-related microRNAs in patients with advanced breast cancer. *PLoS One.* 14: e0221538. doi: 10.1371/journal.pone.0221538, 2019
  20. Kuroda T, Ogiwara H, Sasaki M, Takahashi K, Yoshida H, Kiyokawa T, Sudo K, Tamura K, Kato T, Okamoto A, Kohno T: Therapeutic preferability of gemcitabine for ARID1A-deficient ovarian clear cell carcinoma. *Gynecol*



- Oncol. 155: 489-498, 2019
21. Tamura K, Imamura CK, Takano T, Saji S, Yamanaka T, Yonemori K, Takahashi M, Tsurutani J, Nishimura R, Sato K, Kitani A, Ueno NT, Mushiroda T, Kubo M, Fujiwara Y, Tanigawara Y: *CYP2D6* Genotype-Guided Tamoxifen Dosing in Hormone Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer (TARGET-1): A Randomized, Open-Label, Phase II Study. J Clin Oncol. doi: 10.1200/JCO.19.01412, 2019
22. Modi S, Saura C, Yamashita T, Park YH, Kim S-B, Tamura K, Andre F, Iwata H, Ito Y, Tsurutani J, Sohn J, Denduluri N, Perrin C, Aogi K, Tokunaga E, Im S-A, Lee KS, Hurvitz SA, Cortes J, Lee C, Chen S, Zhang L, Shahidi J, Yver A, Krop I, DESTINY-Breast01 Investigators: Trastuzumab Deruxtecan in Previously Treated HER2-Positive Breast Cancer. N Engl J Med. doi: 10.1056/NEJMoa1914510, 2019
23. Noda-Narita S, Shimomura A, Tanabe Y,

Kawachi J, Matsuzaki J, Takizawa S, Aoki Y, Shimizu C, Tamura K, Ochiya T: Peripheral Neuropathy From Paclitaxel: Risk Prediction by Serum microRNAs. BMJ Support Palliat Care. doi: 10.1136/bmjspcare-2019-001900, 2019

## 2. 学会発表

第27回日本乳癌学会、学術総会、シンポジウム  
2019年7月12日(金) 17:15~19:00  
乳癌専門医とゲノム医療「乳癌におけるゲノム医療の展望」

## G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

## Ⅱ . 分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 土原 一哉  
国立がん研究センター先端医療開発センター  
トランスレーショナルインフォマティクス分野 分野長

研究要旨

書籍、ウェブコンテンツの「ゲノム検査」に関する解説を担当し、執筆、編集、収録を行なった。がんゲノム医療については患者、市民からの注目が高く、一般向けの適切な情報提供のニーズが高い。第一線の研究者の解説が情報発信することの意義は高く、今後もタイムリーな改訂、アップデートが必要と考えられる。

**A. 研究目的**

患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトをを用いる。又、各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェッショナル講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

**B. 研究方法**

班会議に参加し、書籍、ウェブコンテンツの内容を検討した。書籍、ウェブコンテンツの分担項目の執筆、収録を行なった。

**C. 研究結果**

書籍「よくわかるがんゲノム医療」の「ゲノム検査」

」(Q16 がんゲノム検査にはどのようなものがありますか? Q17 次世代シーケンサーとはなんですか? Q18 これまでのがん遺伝子検査とがん遺伝子パネル検査の違いはなんですか? Q19 がんゲノム検査にはどのようなサンプルが必要ですか? Q20 血液で行えるがんのゲノム診断とはどのようなものですか?)について執筆、編集を行なった。同様の内容について、ウェブコンテンツ「がんゲノムネット」に収録する動画の収録を行なった。

**D. 考察およびE. 結論**

がんゲノム医療については患者、市民からの注目が高く、一般向けの適切な情報提供のニーズが高い。第一線の研究者の解説が情報発信することの意義は高く、今後もタイムリーな改訂、アップデートが必要と考えられる。

**F. 研究発表**

1. 論文発表  
なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 高橋 俊二  
がん研究会有明病院 総合腫瘍科部長

研究要旨 インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針（記事更新のタイミングなど）を決定し、分担執筆者を選定した。出版事業に関しては、書籍名、内容、項目を決定し、出版社、分担執筆者を選定した。市民向けのゲノム講習会や3学会の学術集会内でのシンポジウム、教育セミナー、市民公開講座については、まず日本癌学会の市民公開講座における講演が予定されている。

#### A. 研究目的

本研究は、3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いる。各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェッショナル講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。

研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

#### B. 研究方法

各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供するために、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いて情報を提供する。

班会議においてまず書籍、ホームページの内容について検討し、分担項目の執筆、編集、収録を行った。

#### C. 研究結果

収集した情報をとりまとめ、書籍「よくわかるがんゲノム医療」、「がんゲノムネット」の基礎的な分野の講義について担当した。

Q6-10 (Q6ゲノムの異常によってがんになりますか? Q7 がん細胞にはゲノムの異常がどのくらいありますか? Q8 がんは遺伝しますか?

Q9 がん遺伝子とがん抑制遺伝子の違いはなんですか? Q10 ドライバー遺伝子とはなんですか? を担当し、執筆者依頼、編集を行った。

#### D. 考察 E. 結論

2019年度に遺伝子パネル検査が実地臨床にて開始され、実施医療機関が増加するに従い、医療者側の理解度は向上してきたが、患者側の理解度は様々であり、検査実施/説明の前後に医師/コーディネーターから長時間の説明が必要になることも多い。医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有するために、インターネットを用いたこの方法が有用であり、今後の継続、更新改訂が重要と考えられる。

#### F. 研究発表

1. 論文発表  
なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 古川 洋一  
東京大学・医科学研究所 教授

本研究では、がんゲノム医療の実施の際に患者、患者家族、一般市民の理解が必要と思われる関連情報を把握し、それらの提供のために各分野の専門家と協議してコンテンツの作成が行われている。実際に医療現場で行われているがん遺伝子パネル検査に携わる医療スタッフから、患者への説明の際に患者側の理解が困難である事項や、患者からよくある質問などの情報収集を行った。がん遺伝子パネル検査を受けた患者さんからの声を収集し、より注力すべき事項やアップデートすべき内容の把握を行った。

### A. 研究目的

本研究は、日本癌学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会が組織する3学会合同ゲノム医療推進タスクフォースからの依頼を受けて「がんゲノムネット」ワーキンググループ(本WG)が担当する、患者、患者家族、一般市民を対象としたがんゲノム医療関連情報の提供を、迅速かつ効果的に推進することを目的としている。情報提供の方法として学会や患者会などのホームページへの掲載や、書籍出版などを予定している他、学会の学術集会、市民公開講座、医療従事者への教育事業との連携も検討中である。

本研究では、がんゲノム医療の実施の際に患者、患者家族、一般市民の理解が必要と思われる関連情報を把握し、それらの提供のためのコンテンツを各分野の専門家と協議して作成するとともに、よりよいコンテンツ提供のためアップデート体制を整えることを目的としている。

### B. 研究方法

令和元年度は各分野の専門家と協議して、分担執筆者を決定し執筆を依頼した。

また厚労省の委託事業「がんゲノム医療コーディネーター講習会」における質疑応答・意見聴取を通じて、実際に医療現場で行われているがん遺伝子パネル検査に携わる医療スタッフから、患者への説明の際に患者側の理解が困難である事項や、患者からよくある質問などの情報収集を行った。

さらに研究分担者が行った講演活動での討論や、がん遺伝子パネル検査を受けた患者さんからの声を収集し、今後より注力すべき事項やアップデートすべき内容の把握に努めた。

### C. 研究結果

班長及び班員との情報交換を行い、がんゲノムネットに収録すべき内容を整理し、担当執筆者を決定してコンテンツ案作成が行われた。

### D. 考察

2019年度に保険収載されたがんパネル遺伝子検査は、がんゲノム医療中核拠点病院や拠点病院、連携病院を中心に徐々に普及しつつある。体制整備が進んでいる病院もあるが、まだ不十分な病院も見られ、引き続きがんパネル遺伝子検査に関わる医療者の教育が必要である。それとともに検査および検査結果の理解を補助する情報リソースの充実も必要であり、本研究事業がその一役を担うことが期待されている。

検査の結果、選択肢として治療薬や臨床試験が見つかる場合もあるが、見つからない場合もあり、必ずしも検査を受けた患者さんの満足が得られているわけではない。また遺伝性腫瘍の生殖細胞系列変異などの二次的な所見が見つかり、患者さんとそのご家族が新たな課題を担うこともある。各病院での遺伝医療部門の連携体制整備とともに、患者やご家族に向けた情報提供が望まれる。

### E. 結論

コンテンツの作成が進んでいるが、書籍やwebにて公開される情報を、継続的にアップデートしていくことが求められる。

また情報サイトが利用されるよう、学会等を通じた広報活動が必要である

### F. 研究発表

1. 論文発表 なし

### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 川上 尚人  
近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 講師

研究要旨 インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針(記事更新のタイミングなど)を決定し、分担執筆者を選定する。出版事業に関しては、書籍名、内容、項目を決定し、出版社、分担執筆者を選定する。市民向けのゲノム講習会や3学会の学術集会内でのシンポジウム、教育セミナー、市民公開講座については、平成30年度の開始を目標とする。事業全般において、分担研究者とその研究班などから、がん患者、患者家族に対するコミュニケーション方法について情報収集し、情報発信に役立てる。

### A. 研究目的

本研究は、3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いる。各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェSSIONAL講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

### B. 研究方法

以下の方法を取る。

1. 会議(がんゲノムネットワーキンググループ)への参加
2. 各情報配信業者との打ち合わせ
3. 書籍出版
4. 市民向けのゲノム講習会の開催準備
5. 3学会の学術集会内でのシンポジウム、教育セミナー、市民公開講座の開催準備

### C. 研究結果

書籍「よくわかるがんゲノム医療」の「ゲノム検査」(Q26 肺がんにおけるEGFR変異とはなんですか? Q27 肺がんにおけるALK融合遺伝子とはなんですか? Q28 大腸がんにおけるRAS変異、BRAF変異とはなんですか? Q29 MSI検査とはな

んですか? Q30 遺伝子変異量(TMB)やPD-L1発現量検査とはなんですか?)について執筆、編集を行った

### D. 考察

2019年の遺伝子パネル保険適応に伴い、パネル検査が実装される医療機関が増えている。しかしこの検査でわかること可能なことについての患者側の理解は十分とは言えない。当初喧伝されたほど「ゲノム医療」が万能ではないことが徐々に医療者側に浸透しつつある一方で、遺伝子パネルによって、実際に次の治療に結びついた、かつ治療効果が認められた症例も少なからず存在している。真にゲノム医療の恩恵に浴する症例を抽出するためにも、医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有することが重要である。この目的にインターネットは最も適したツールであると考えられる

### E. 結論

現在コンテンツを作成中であり、完成次第、書籍およびwebにて公開し、医療従事者ならびに患者、患者家族、一般市民からのフィードバックを得る。その内容を速やかに反映させコンテンツの継続的な充実を図る。インターネットを用いたこの方法は、医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有するのに最も適しており、今後さらに推進していくことが求められる。

### F. 研究発表

1. 論文発表 なし

### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

### 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 佐治 重衡  
公立大学法人 福島県立医科大学 腫瘍内科学講座

研究要旨：本研究では、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とし、その内容の作成とコミュニケーション方法の評価をおこなう。本年度は、3学会合同書籍「よくわかるがんゲノム医療」の出版のための、執筆、編集作業をおこなった。

#### A. 研究目的

本研究は、患者、患者家族、一般市民を対象に、現在のがんゲノム医療の全体像をまとめながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなどの正確な情報を提供する。情報ツールとしては、学会のホームページ、患者会のホームページ、NPOが関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手インターネットサイトを用いる。国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

#### B. 研究方法

インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針を決定し、分担執筆者を選定する。出版事業に関しては、書籍名、内容、項目を決定し、分担執筆者の選定と執筆、編集作業をおこなっていく。がん患者、患者家族に対するコミュニケーション方法について実地診療のなかで、電子媒体や動画等を用いた場合の有用性や問題点についても評価する。

#### C. 研究結果

書籍「よくわかるがんゲノム医療(仮題)」の制作において、“各種がんにおけるがんゲノム医療”について5つのQAを設定し、それらの項目についての執筆者を決定した。Q31 乳がんや胃がんにおけるHER2検査とはなんですか？、Q32 乳がんや卵巣がんにおけるBRCA遺伝子変異検査とはなんですか？、Q33 悪性黒色腫（メラノーマ）におけるBRAF変異検査とはなんですか？、Q34 慢性骨髄性白血病におけるBCR/ABL融合遺伝子検査とはなんですか？、Q35 消化管間質腫瘍（GIST）におけるKIT変異検査とはなんですか？ の5つについて執筆をおこない、編集者校閲などの作業をほぼ完了した。

がん患者、患者家族に対するコミュニケーションツールの可能性として、タブレット端末を用いた、スライドによるがんゲノム医療（BRCA1/2遺伝子検査、がんゲノム遺伝子パネル検査）説明の実践を実地診療のなかで行った。

#### D. 考察

遺伝性遺伝子の変化と、体細胞性遺伝子の変化の違いを明確にしつつ、“治療選択を目的とするがん患者さんが必要とする情報”と“罹りリスクやサーベイランス・予防的医療選択を目的とする未発症健常者/がん患者”への情報提供の難しさが、書籍の作成やがん患者・患者家族とのコミュニケーションツール運用のなかから明確になってきた。

#### E. 結論

書籍「よくわかるがんゲノム医療(仮題)」の内容がほぼ確定した。タブレット端末を用いた、がんゲノム医療説明の実践を行った

これまででは自費診療としてしか選択できなかったが、R2年より、早期乳癌へのBRCA1/2遺伝子検査の保険適応、予防的卵巣卵管切除と対側乳房切除ががん患者さんで保険診療として可能になったことから、「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達は今後ますます重要な課題となると考えられた。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) 佐治重衡（患者向けガイドライン小委員会 委員長）患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2019年版、日本乳癌学会編 金原出版、2019.
- 2) 佐治重衡（患者向けガイドライン小委員会 委員長）乳癌診療ガイドライン 追補2019 2018年版 日本乳癌学会 編、金原出版、2019.

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 矢野 聖二  
国立大学法人金沢大学・がん進展制御研究所・教授

研究要旨

インターネットなどを用いた情報配信事業について、書籍「よくわかるがんゲノム医療」とSNSコンテンツ「がんゲノムネット」の分担執筆者を選定した。市民向けのゲノム講習会については、矢野が事業責任者である「文部科学省・多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン：北信がんプロ」を主体とした「市民公開講座」を2019年10月20日（日）に金沢市で開催し、150名の参加者に対しゲノム変異の意味、実施されているゲノム医療、遺伝カウンセリング、免疫チェックポイント阻害療法とがんゲノム医療の接点についての最新情報を発信した。

A. 研究目的

近年、個人のゲノム情報に基づき、個人ごとの違いを考慮した「がんゲノム医療」への期待が高まっている。第3期がん対策推進基本計画では、「バイオバンク」、「次世代シーケンスを用いたゲノム解析」、「治験薬と含めた治療選択肢を提示できるゲノムコンソーシアム」などを推進する一方、「がんゲノム医療」に関する国民への理解を促進するための教育や普及啓発が求められている。現状、「がんゲノム医療」には、患者を中心とした社会一般から多大な期待がなされているが、正確な情報提供が欠如しているため、一般人はもちろん医療従事者の間でも混乱が生じている。

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」は、昨年より「がんゲノム医療の推進」を目的として、「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」（座長：日本癌治療学会理事長北川 雄光）を設立した。活動目標の1つの「社会に対する正しいがんゲノム医療の提供」の実現のために「がんゲノムネット・ワーキンググループ（WG）」を組織した。3学会よりそれぞれ推薦を受けた10名で構成し、2017年10月20日に第1回のWG会議を開催し、現在活動を継続している。

本研究は、「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」が「がんゲノム医療の推進」を目的に設立した「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」を基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行う「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

B. 研究方法

インターネットなどを用いた情報配信事業について、情報ツール、コンテンツ及び運営方針（記事更新のタイミングなど）を決定し、分担執筆者を選定する。出版事業に関しては、書籍名、内容、項目を決定し、出版社、分担執筆者を選定する。市民向けのゲノム講習会の実施を計画する。

（倫理面への配慮）

本研究は、がんゲノム情報を正しく市民に配信するコンテンツを作成するものであり、個人情報も扱わないため、特段の配慮はない。

C. 研究結果

第3回「がんゲノム医療ネット」ワーキンググループ会議・第1回田村班会議（2019年9月16日（金）13時～15時、AP東京八重洲通り7階「Sルーム」）に日本臨床腫瘍学会の代表かつ田村班員として参加し、書籍「よくわかるがんゲノム医療」の出版と、SNSコンテンツ「がんゲノムネット」の開設に向けて、具体的な話し合いを行った。依頼原稿や動画撮影の進捗状況を確認しながら、今後のスケジュールについて確認した。次世代シーケンス遺伝子パネルの保険償還を受けて、よりタイムリーな話題を提供できるように調整した。

市民向けのゲノム講習会については、矢野が事業責任者である「文部科学省・多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン：北信がんプロ」を主体とした「市民公開講座」を2019年10月20日（日）に金沢市で開催した。150名の参加者を集め、「第二部：金沢で受けられるがんゲノム医療」では4名の講師からゲノム変異の意味、金沢で実施されているゲノム医療、遺伝カウンセリング、免疫チェックポイント阻害療法とがんゲノム医療の接点についての解説を行った。



## D. 考察

市民公開講座において行ったアンケート調査では、昨年度に引き続き一般市民のがんゲノム医療に対する期待が非常に大きいことを感じた。現在のがんゲノム医療は、遺伝子解析により治療薬候補が見つかり従来では行えなかった分子標的治療が行える可能性を有している一方で、「ゲノム治療」と称する誤った情報、エビデンスのない高額な検査法や民間医療が増えてきているなどの負の側面もある。これらの負の情報も適切に公開することが必要であると再認識した。

## E. 結論

本研究を完遂し、正しい医療情報・資源への患者のアクセスを可能とさせ、がん患者の不利益を減少させることが重要であると感じた。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

1. Okura N, Nishioka N, Yamada T, Taniguchi H, Tanimura K, Katayama Y, Yoshimura A, Watanabe S, Kikuchi T, Shiotsu S, Kitazaki T, Nishiyama A, Iwasaku M, Kaneko Y, Uchino J, Uehara H, Horinaka M, Sakai T, Tanaka K, Kozaki R, Yano S, Takayama K. ONO-7475, a novel AXL inhibitor, suppresses the adaptive resistance to initial EGFR-TKI treatment in *EGFR*-mutated non-small lung cancer. **Clin Cancer Res**, 2020 Jan 17. pii: clincanres.2321.2019.
2. Adachi Y, Yanagimura N, Suzuki C, Ootani S, Tanimoto A, Nishiyama A, Yamashita K, Ohtsubo K, Takeuchi S, Yano S. Reduced doses of dabrafenib and trametinib combination therapy for BRAF V600E-mutant non-small cell lung cancer prevent rhabdomyolysis and maintain tumor shrinkage: a case report. **BMC Cancer**, 2020 Feb 24;20(1):156.
3. Takeuchi S, Hase T, Shimizu S, Ando M, Hata A, Murakami H, Kawakami T, Nagase K, Yoshimura K, Fujiwara T, Tanimoto A, Nishiyama A, Arai S, Fukuda K, Katakami N, Takahashi T, Hasegawa Y, Ko TK, Ong ST, Yano S. Phase I study of vorinostat with gefitinib in BIM deletion polymorphism/*EGFR* mutation double-positive lung cancer. **Cancer Sci**, 2020 Feb;111(2):561-570.

4. Peng S, Wang R, Zhang X, Ma Y, Zhong L, Li K, Nishiyama A, Arai S, Yano S, Wang W. EGFR-TKI resistance promotes immune escape in lung cancer via increased PD-L1 expression. **Mol Cancer**. 2019 Nov 20;18(1):165.
5. Ohtsubo K, Miyake K, Arai S, Fukuda K, Yanagimura N, Suzuki C, Otani S, Adachi Y, Tanimoto A, Nishiyama A, Yamashita K, Takeuchi S, Notohara K, Yoshimura K, Yano S. Analyses of aberrant methylation of tumor suppressive miRNAs in bile in patients with pancreaticobiliary diseases. **Anticancer Res**. 2019 Oct;39(10):5449-5459. doi: 10.21873/anticancerres.13738.
6. Kita K, Fukuda K, Takahashi H, Tanimoto A, Nishiyama A, Arai S, Takeuchi S, Yamashita K, Ohtsubo K, Otani S, Yanagimura N, Suzuki C, Ikeda H, Tamura M, Matsumoto I, Yano S. Patient-derived xenograft models of non-small cell lung cancer for evaluating targeted drug sensitivity and resistance. **Cancer Sci**, 2019 Oct;110(10):3215-3224.
7. Staub Y, Nishiyama A, Suga Y, Fujita M, Matsushita R, Yano S. Clinical characteristics associated with lenvatinib-induced fistula and tumor-related bleeding in patients with thyroid cancer. **Anticancer Res**. 2019 Jul;39(7):3871-3878. doi: 10.21873/anticancerres.13537.
8. Adachi Y, Yano S. Caput medusae-like venous dilatations in lung cancer. **Internal Med**. 2019 Jul 10. doi: 10.2169/internalmedicine.2577-18.
9. Sakai K, Passioura T, Sato H, Ito K, Furuhashi H, Umitsu M, Takagi J, Kato Y, Mukai H, Warashina S, Zouda M, Watanabe Y, Yano S, Shibata M, Suga H, Matsumoto K. Macrocyclic peptide-based inhibition and imaging of hepatocyte growth factor. **Nat Chem Biol**. 2019 Jun;15(6):598-606.

### 2. 学会発表

1. 第116回日本内科学会講演会 大谷咲子, 板谷勇輝, 柳村尚寛, 鈴木千晶, 足立雄太, 西山明宏, 谷本 梓, 山下 要, 大坪公士郎, 竹内伸司, 矢野聖二. 金沢大学附属病院における若年がん患者の妊孕性温存について

の現状 2019年4月 名古屋

2. 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ  
2019. 坂口裕之, 谷本 梓, 柳村尚寛, 鈴木千晶, 大谷咲子, 西山明宏, 山下 要, 竹内伸司, 大坪公士郎, 矢野聖二. 膵癌に対する一次化学療法として FOLFIRINOX 療法と GEM+nab-PTX 療法の治療選択に関する後方視的検討. 2019年4月 名古屋
3. 第105回日本消化器病学会総会 大坪公士郎, 三宅邦夫, 矢野聖二. 各種膵胆道疾患における胆汁中癌抑制型 miRNA のメチル化に関する検討. 2019年5月 金沢
4. 第23回日本がん分子標的治療学会学術集会 矢野聖二. 肺がんの治療抵抗性メカニズムの最新情報, 2019年6月 大阪
5. 第23回日本がん分子標的治療学会学術集会 西山明宏, 新井祥子, 谷本 梓, 竹内伸司, 矢野聖二. 中枢神経系転移における耐性機構. 2019年6月 大阪
6. 第23回日本がん分子標的治療学会学術集会 福田康二, 竹内伸司, 新井祥子, 片山量平, 西尾誠人, 矢野聖二. 肺がんにおいて上皮間葉転換は ALK 阻害薬耐性メカニズムとして機能する. 2019年6月 大阪
7. 第50回日本膵臓学会大会 大坪公士郎, 山下 要, 坂井健二, 矢野聖二. 当科における Trousseau 症候群を併発した膵癌症例の検討. 2019年7月 東京
8. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会 西山明宏, スタッフ由紀子, 菅 幸生, 藤田未来也, 松下 良, 矢野聖二. 甲状腺癌におけるレンパチニブによる瘻孔形成および腫瘍関連出血の危険因子の検討. 2019年7月 京都
9. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会 西山明宏, 竹内伸司, 足立雄太, 大谷咲子, 谷本 梓, 佐々木素子, 松本慎吾, 後藤功一, 矢野聖二. 血漿 T790M 陽性肺癌患者のオシメルチニブ耐性に MET 増幅が関与していた. 2019年7月 京都
10. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会 谷本 梓, 松本慎吾, 西山明宏, 竹内伸司, 後藤功一, 矢野聖二. Proteasome inhibitor overcomes

ALK-TKI resistance by p53 inactivation through Noxaexpression in EML4-ALK NSCLC 2019年7月 京都

11. 第28回日本がん転移学会学術集会・総会 新井祥子, 竹内伸司, 福田康二, 西山明宏, 谷本 梓, 谷口寛和, 片山量平, 山本卓志, 矢野聖二. EML4-ALK 肺癌の髄膜癌腫症モデルにおける amphiregulin に起因するアレクチニブ耐性の克服. 2019年7月 鹿児島
12. 第78回日本癌学治療学会学術集会 坂口裕之, 谷本 梓, 柳村尚寛, 鈴木千晶, 大谷咲子, 西山明宏, 山下 要, 竹内伸司, 大坪公士郎, 矢野聖二. 膵癌に対する一次化学療法として FOLFIRINOX 療法と GnP 療法の選択に関する後方視的検討. 2019年10月 福岡
13. 第78回日本癌学会学術総会 矢野聖二. Mechanisms of drug tolerant cells to osimertinib in EGFR mutated lung cancer. 2019年9月 京都
14. 第83回呼吸器合同北陸地方会 西山明宏, 坂口裕之, 柳村尚寛, 大谷咲子, 谷本 梓, 竹内伸司, 矢野聖二. たこつぼ型心筋症による心原性ショックを発症した EGFR exon20 insertion mutation 陽性肺がんの一例. 2019年11月 黒部
15. 第61回日本消化器病学会大会 大坪公士郎, 三宅邦夫, 矢野聖二. 胆汁中癌抑制型 miRNA のメチル化解析による膵胆道疾患の良悪性鑑別に関する検討. 2019年11月 神戸
16. 第60回日本肺癌学会学術集会 矢野聖二. Circumvention of targeted drug tolerance in EGFR mutated lung cancer. 2019年12月 大阪
17. 第60回日本肺癌学会学術集会 谷本 梓, 松本慎吾, 後藤 功一, 矢野聖二. ALK 融合遺伝子陽性肺癌において p53 の機能低下がもたらす ALK-TKI 自然耐性の克服. 2019年12月 大阪

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許出願  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし。
3. その他  
該当なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 植竹 宏之  
東京医科歯科大学大学院・医学部医学科・総合外科学分野 教授

研究要旨 一般の人を対象とした、ウェブサイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」の制作を企画し、その掲載内容について検討をおこなった。当院の池田貞勝氏、熊木裕一氏（がんゲノム診療科）に分担執筆を依頼し、了承され、執筆がなされた

### A. 研究目的

3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことが目的である。研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目的とする。

### B. 研究方法

インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針（記事更新のタイミングなど）を決定し、分担執筆者を選定する。事業全般において、分担研究者とその研究班などから、がん患者、患者家族に対するコミュニケーション方法について情報収集し、情報発信に役立てる。

1. 会議（がんゲノムネットワークワーキンググループ）の開催
2. 各情報配信業者との打ち合わせ
3. 書籍出版
4. 市民向けのゲノム講習会の開催
5. 3学会の学術集会内でのシンポジウム、教育セミナー、市民公開講座の開催

### C. 研究結果

ウェブサイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」の制作を企画し、その掲載内容について検討をおこなった。当院の池田貞勝氏、熊木裕一氏（がんゲノム診療科）に分担執筆を依頼し、了承され、執筆がなされた

### D. 考察

「遺伝子パネル検査」が保険診療となり、研究ベースから実臨床にゲノム医療の場が移った。しかし検査は高額であり、また治療薬が見いだされて実際に投与されるのは20%程度である（大腸

癌）。真にゲノム医療の恩恵に浴する症例を抽出するためにも、医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有することが重要である。

### E. 結論

書籍「よくわかるがんゲノム医療」が制作された。今後、インターネットを用いて、医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有する。

### F. 研究発表

論文発表

1. Menyhart O, Kakisaka T, Pongor LS, [Uetake H](#), Goel A, Györfy B. Uncovering Potential Therapeutic Targets in Colorectal Cancer by Deciphering Mutational Status and Expression of Druggable Oncogenes. *Cancers (Basel)*. 2019 Jul 14;11(7):983. doi: 10.3390/cancers11070983.
2. Kumaki Y, Takahashi K, Mitsumura T, Yokobori J, Takamine E, Ishibashi E, Sakashita H, Ishikawa T, Ono H, Ban D, Kudo A, Oshima N, Nakagawa T, Kimura K, Kubota K, Onishi I, Tanabe M, [Uetake H](#), Miyake S, Ikeda S. Clinical Utility of Comprehensive Genome Profiling Using FoundationOne CDx in Japanese Population (PROFILE-F Study) (Japanese). *Gan To Kagaku Ryoho*. 2019 Nov;46(11):1715-1719.

### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 林田 哲  
慶應義塾大学医学部専任講師

研究要旨

本研究は患者向けのがんゲノム医療に関する書籍およびウェブコンテンツの作成を行い、継続的なアップデートを行うことを目的とする

**A. 研究目的**

一般市民および患者にむけて、がんゲノム医療の概要を利点・欠点等を科学的エビデンスに基づいて平易な形で説明するツールを作成することを目的とする。これらは書籍およびウェブコンテンツとして作成され、継続的なアップデートを行っていくことを目的とした研究である。

**B. 研究方法**

上記の目的を達成するために、日本臨床腫瘍学会・日本癌学会・日本癌治療学会のホームページからリンクするページ及び書籍の作成を進行している。医療従事者ではな一般向けのQ&Aを想起し、これに回答するのが適切であると判断された専門家に、回答の作成を依頼し、これをまとめた。

**C. 研究結果**

班会議を通じて、ホームページ及び書籍の内容やClinical Questionの策定を行い、これについて

班内での合意形成を行った。担当するテーマにおける適切な執筆者の選定作業や執筆する内容の決定・校正を行った。

**D. 考察**

がんゲノム医療の発展・進展はスピードが速く、これを行っている間にも医学的・政策的な進捗が行われているため、このスピード感に合わせた改訂・アップデートが必要と考えられた。

**E. 結論**

**F. 研究発表**

1. 論文発表  
特記すべきことなし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 吉原 弘祐  
新潟大学大学院医歯学総合研究科・産婦人科

研究要旨 「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」合同ワーキンググループを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを目的とする。NPOがん関連ネット、患者会などと連携しながら、インターネット「がんゲノムネット（仮称）」と書籍「よくわかるがんゲノム医療（仮題）」について制作を進めている。

### A. 研究目的

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」が設立した「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」内の活動目標の1つである、「社会に対する正しいがんゲノム医療の提供」の実現に向け、「がんゲノムネット・ワーキンググループ（WG）」が組織された。この3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを目的とする。

### B. 研究方法

#### 1. 会議

がんゲノムネット・ワーキンググループ（田村，土原，高橋，古川，川上，佐治，矢野，植竹，林田，吉原，清水）を開催する。インターネット公開および書籍出版により、正しいがんゲノム医療情報を提供する。

#### 2. 関連学会への参加

適切な執筆者の選定や学会でのがんゲノム医療情報の配信に関して情報収集を行う。

（倫理面への配慮）

偏った情報あるいは誤った情報を配信することがないように、ワーキンググループ内で情報源の把握を行う。

### C. 研究結果

2019年9月16日に開催された3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース「がんゲノム医療ネット」ワーキンググループに参加した。現状のがんゲノム医療の情報配信に関する問題点を議論し、情報ツールとしてインターネット「がんゲノムネット」と書籍「よくわかるがんゲノム医療」の制作を進めた。また、動画サイト撮影のために、準備を進めた。

### D. 考察

研究計画書の年度予定通りに順調に進んでいる。がんゲノム医療情報は日々更新されていることから、適宜計画の見直しを行い、社会のニーズに合うものを発信できるようにしていく必要がある。

### E. 結論

3学会合同WGでがんゲノム医療情報発信に向けた基盤を築くことが可能であった。

### F. 研究発表

#### 1. 論文発表

Tamura R, Yoshihara K, Nakaoka H, Yachida N, Yamaguchi M, Suda K, Ishiguro T, Nishino K, Ichikawa H, Homma K, Kikuchi A, Ueda Y, Takei Y, Fujiwara H, Motoyama T, Okuda S, Wakai T, Inoue I, Enomoto T. XCL1 expression correlates with CD8-positive T cells infiltration and PD-L1 expression in squamous cell carcinoma arising from mature cystic teratoma of the ovary. *Oncogene* 2020 39; 3541-3554

Tuna M, Ju Z, Yoshihara K, Amos CI, Tanyi JL, Mills GB. Clinical relevance of TP53 hotspot mutations in high-grade serous ovarian cancers. *Br J Cancer*. 2020 Feb;122(3):405-412.

Sugino K, Tamura R, Nakaoka H, Yachida N, Yamaguchi M, Mori Y, Yamawaki K, Suda K, Ishiguro T, Adachi S, Isobe M, Yamaguchi M, Kashima K, Motoyama T, Inoue I, Yoshihara K, Enomoto T. Germline and somatic mutations of homologous recombination-associated genes in Japanese ovarian cancer patients. *Sci Rep*. 2019 Nov 28;9(1):17808.

### G. 知的財産権の出願・登録状況

#### 1. 特許取得 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 清水 千佳子

国立国際医療研究センター・乳腺・腫瘍内科・医長

**研究要旨** 3学会合同ワーキンググループを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを目的とする。NPOがん関連ネット、患者会などと連携しながら、インターネット「がんゲノムネット(仮称)」と書籍「よくわかるがんゲノム医療(仮題)」について制作を進めている。事業全般において、分担研究者とその研究班などから、がん患者、患者家族に対するコミュニケーション方法について情報収集し、情報発信に役立てる。

#### A. 研究目的

一般の患者に向けて、がんゲノム医療の概要と利点・欠点等を科学的エビデンスに基づいて平易な形で説明するツールを作成することを目的とする。

#### B. 研究方法

上記の目的を達成するために、日本臨床腫瘍学会・日本癌学会・日本癌治療学会のホームページからリンクするホームページの作成を進行している。又、「よくわかるゲノム医療」の出版物の作成を進めている。

#### C. 研究結果

班会議を通じて、ホームページおよび冊子の内容やClinical Questionの策定を行い、これについて班内での合意形成を行った。また、執筆者の選定作業を行った。

#### D. 健康危険情報

特記すべきことなし

#### E. 研究発表

1. 論文発表  
特記すべきことなし

2. 学会発表  
特記すべきことなし

#### F. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得  
特記すべきことなし

2. 実用新案登録  
特記すべきことなし

3. その他  
特記すべきことなし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 加藤 雅志

国立がん研究センター がん対策情報センター がん医療支援部 部長

研究要旨 「がんゲノム医療」には、患者を中心とした国民から多大な期待がなされているが、正確な情報提供が不十分であり、誤解も多くある。本研究では、がん相談支援センターのがん専門相談員にインタビューを行い、がん患者や一般の方々のがんゲノム医療に関連して抱いている疑問について整理を行い、今後求められる情報発信のあり方について検討を行う。

#### A. 研究目的

「がんゲノム医療」には、患者を中心とした国民から多大な期待がなされている。一方、正確な情報提供が不十分であり、一般の国民には適切な理解が難しいため、誤解も多くある状況が続いている。本研究では、日頃からがん患者をはじめとした一般の方々からのがん相談に対応をしているがん相談支援センターのがん専門相談員にインタビューを行い、がん患者や一般の方々のがんゲノム医療に関連して抱いている疑問について整理を行う。

#### B. 研究方法

国立がん研究センター中央病院相談支援センターに勤務するがん専門相談員を対象に、「がんゲノム医療」に関連して受ける相談内容についてインタビューを行い、その内容について分析を行った。

(倫理的配慮)

本研究は、医療者を対象とする調査であり、国立がん研究センターの研究倫理審査の対象外ではあるが、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に従い調査を実施した。

#### C. 研究結果

「がんゲノム医療」に関連して、以下の10項目の内容の質問を受けることが明らかになった。

- ・がんゲノム医療とはどういうものか
- ・がんゲノム医療を受けるにはどうしたらよい か
- ・がんゲノム医療を受けたい(治療がすぐに受けられると考えている)
- ・がんゲノム医療の対象者はどれか(がん種、病期、治療後など)
- ・受診時に準備するものは何か

- ・診療科ごとの担当医師は決まっているか
- ・費用はどのくらいかかるのか
- ・解析の方法はどんなものか(血液検査や組織検査か)
- ・解析にかかる時間はどれくらいか
- ・解析後、どれくらい治療につながるのか

#### D. 考察

「がんゲノム医療」について、テレビなどで特集番組が放送されるとがん相談支援センターへの相談の件数が増加する状況が続いている。相談をしてくる方々の背景をみると、自身ががんゲノム医療の対象となるかどうかについて知りたいという状況である方が多く、今後、このようなニーズにどのように対応していくかが課題だと考えられる。

#### E. 結論

「がんゲノム医療」の情報発信に関しては、一般的な情報提供と、個別的な状況に活用される情報提供とがあることを意識し、日々更新されていく新たな情報をどのように提供していくかが重要である。

#### F. 研究発表

なし

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表



## 研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト

## 書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
佐治重衡	患者さんのための乳がん診療ガイドライン	日本乳癌学会	患者さんのための乳がん診療ガイドライン	金原出版	-	2019	-
佐治重衡	乳癌診療ガイドライン追補2019-2018年版	日本乳癌学会	乳癌診療ガイドライン追補2019-2018年版	金原出版	-	2019	-

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Shiino S, Matsuzaki J, <u>Tamura K</u> et al.	Serum miRNA-based Prediction of Axillary Lymph Node Metastasis in Breast Cancer.	Clin Cancer Res.	25	1817-1827	2019
Noguchi E, <u>Tamura K</u> , Hattori M et al.	Trastuzumab emtansine plus pertuzumab in Japanese patients with HER2-positive metastatic breast cancer: a phase Ib study.	Breast Cancer	26	39-46	2019
Yonemori K, Shimomura A, <u>Tamura K</u> et al.	A phase I/II trial of olaparib tablet in combination with eribulin in Japanese patients with advanced or metastatic triple-negative breast cancer previously treated with anthracyclines and taxanes.	Eur J Cancer	109	84-91	2019
Noda-Narita S, Shimomura A, <u>Tamura K</u> et al.	Comparison of the efficacy of trastuzumab emtansine between patients with metastatic human epidermal growth factor receptor 2-positive breast cancers previously treated with combination trastuzumab and pertuzumab and with trastuzumab only in Japanese population.	Breast Cancer	26	492-498	2019
Sunami K, Ichikawa H, <u>Tamura K</u> et al.	Feasibility and utility of a panel testing for 114 cancer-associated genes in a clinical setting: A hospital-based study.	Cancer Sci	110	1480-1490	2019
Ito T, Kumagai Y, <u>Tamura K</u> et al.	Mathematical analysis of gefitinib resistance of lung adenocarcinoma caused by MET amplification.	Biochem Biophys Res Commun.	511	544-550	2019
Turner NC, Alarcón E, <u>Tamura K</u> et al.	BEECH: A dose-finding run-in followed by a randomised phase 2 study assessing the efficacy of AKT inhibitor capivasertib (AZD5363) combined with paclitaxel in patients with oestrogen receptor-positive advanced or metastatic breast cancer, and in a PIK3CA mutant subpopulation.	Ann Oncol.	30	774-780	2019

Hirakawa A, Sudo K, <u>Tamura K</u> et al.	A comparative study of longitudinal toxicities of cytotoxic drugs, molecularly targeted agents, immunomodulatory drugs, and cancer vaccines.	Clin Pharmacol Ther	106	803-809	2019
Goto K, Fujiwara Y, <u>Tamura K</u> et al.	Pharmacokinetic study of the oral fluorouracil antitumor agent S-1 in patients with impaired renal function.	Cancer Sci.	110	1987-1994	2019
<u>Tamura K</u> , Tsurutani J, Takahashi S et al.	Trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in patients with advanced HER2-positive breast cancer previously treated with trastuzumab emtansine: a dose-expansion, phase 1 study.	Lancet Oncol.	20	816-826	2019
Shitara K, Iwata H, <u>Tamura K</u> et al.	Trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in patients with advanced HER2-positive gastric cancer: a dose-expansion, phase 1 study.	Lancet Oncol.	20	827-836	2019
Yap YS, Lu YS, <u>Tamura K</u> et al.	Insights Into Breast Cancer in the East vs the West: A Review.	JAMA Oncol.	-	doi: 10.1001/jamaoncol.2019.0620	2019
Ebata T, Shimizu T, <u>Tamura K</u> et al.	Phase I study of the indoleamine 2,3-dioxygenase 1 inhibitor navoximod (GDC-0919) as monotherapy and in combination with the PD-L1 inhibitor atezolizumab in Japanese patients with advanced solid tumours.	Invest New Drugs	-	doi: 10.1007/s10637-019-00787-3	2019
<u>Tamura K</u> , Hasegawa K, Katsumata N et al.	Efficacy and safety of nivolumab in Japanese patients with uterine cervical cancer, uterine corpus cancer, or soft tissue sarcoma: a multicenter, open-label phase 2 trial.	Cancer Sci.	110	2894-2904	2019
Shimomura A, Yonemori K, <u>Tamura K</u> et al.	Gene Alterations in Triple-Negative Breast Cancer Patients in a Phase I/II Study of Eribulin and Olaparib Combination Therapy.	Transl Oncol	12	1386-1394	2019
Kubo M, Kawai M, <u>Tamura K</u> et al.	A population-based recurrence risk management study of patients with pT1 node-negative HER2+ breast cancer: a National Clinical Database study.	Breast Cancer Res Treat	178	647-656	2019
Satomi-Tsushita N, Shimomura A, <u>Tamura K</u> et al.	Serum microRNA-based prediction of responsiveness to eribulin in metastatic breast cancer.	PLoS One.	14	e0222024. doi: 10.1371/journal.pone.0222024	2019

Nakano MH, Udagawa C, <u>Tamura K</u> et al.	A Genome-Wide Association Study Identifies Five Novel Genetic Markers for Trastuzumab-Induced Cardiotoxicity in Japanese Population.	Biol Pharm Bull.	42	2045-2053	2019
Sato J, Shimomura A, <u>Tamura K</u> et al.	Brain metastasis-related microRNAs in patients with advanced breast cancer.	PLoS One	14	e0221538. doi: 10.1371/journal.pone.0221538	2019
Kuroda T, Ogiwara H, <u>Tamura K</u> et al.	Therapeutic preferability of gemcitabine for ARID1A-deficient ovarian clear cell carcinoma.	Gynecol Oncol.	155	489-498	2019
<u>Tamura K</u> , Imamura CK, Takano T et al.	<i>CYP2D6</i> Genotype-Guided Tamoxifen Dosing in Hormone Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer (TARGET-1): A Randomized, Open-Label, Phase II Study.	J Clin Oncol.	-	doi: 10.1200/JCO.19.01412	2019
Modi S, Saura C, <u>Tamura K</u> et al.	DESTINY-Breast01 Investigators: Trastuzumab Deruxtecan in Previously Treated HER2-Positive Breast Cancer.	N Engl J Med.	-	doi: 10.1056/NEJMoa1914510	2019
Noda-Narita S, Shimomura A, <u>Tamura K</u> et al.	Peripheral Neuropathy From Paclitaxel: Risk Prediction by Serum microRNAs	BMJ Support Palliat Care	-	doi: 10.1136/bmjspcare-2019-001900	2019
Okura N, Nishioka N, <u>Yano S</u> et al.	ONO-7475, a novel AXL inhibitor, suppresses the adaptive resistance to initial EGFR-TKI treatment in <i>EGFR</i> -mutated non-small lung cancer.	Clin Cancer Res	-	pii: clincanres.2321	2020
Adachi Y, Yanagimura N, <u>Yano S</u> et al.	Reduced doses of dabrafenib and trametinib combination therapy for BRAF V600E-mutant non-small cell lung cancer prevent rhabdomyolysis and maintain tumor shrinkage: a case report.	BMC Cancer	20	156	2020
Takeuchi S, Hase T, <u>Yano S</u> et al.	Phase I study of vorinostat with gefitinib in BIM deletion polymorphism/EGFR mutation double-positive lung cancer.	Cancer Sci	111	561-570	2020
Peng S, Wang R, <u>Yano S</u> et al.	EGFR-TKI resistance promotes immune escape in lung cancer via increased PD-L1 expression.	Mol Cancer.	18	165	2019
Ohtsubo K, Miyake K, <u>Yano S</u> et al.	Analyses of aberrant methylation of tumor suppressive miRNAs in bile in patients with pancreaticobiliary diseases.	Anticancer Res	39	5449-5459	2019

Kita K, Fukuda K, <u>Yano S</u> et al.	Patient-derived xenograft models of non-small cell lung cancer for evaluating targeted drug sensitivity and resistance.	Cancer Sci,	110	3215-3224	2019
Staub Y, Nishiyama A, <u>Yano S</u> et al.	Clinical characteristics associated with lenvatinib-induced fistula and tumor-related bleeding in patients with thyroid cancer.	Anticancer Res.	39	3871-3878	2019
Adachi Y, <u>Yano S.</u>	Caput medusae-like venous dilations in lung cancer.	Internal Med.	-	doi: 10.2169/internalmedicine.2577-18	2019
Sakai K, Passioura T, <u>Yano S</u> et al.	Macrocyclic peptide-based inhibition and imaging of hepatocyte growth factor.	Nat Chem Biol	15	598-606	2019
Menyhart O, Kakisaka T, <u>Uetake H</u> et al.	Uncovering Potential Therapeutic Targets in Colorectal Cancer by Deciphering Mutational Status and Expression of Druggable Oncogenes.	Cancers (Basel).	11	983. doi: 10.3390/cancers11070983.	2019
Kumaki Y, Takahashi K, <u>Uetake H</u> et al.	Clinical Utility of Comprehensive Genome Profiling Using FoundationOne CDx in Japanese Population (PROFILE-F Study)	Gan To Kagaku Ryoho.	46	1715-1719	2019
Tamura R, <u>Yoshihara K</u> , Nakaoka H et al.	XCL1 expression correlates with CD8-positive T cells infiltration and PD-L1 expression in squamous cell carcinoma arising from mature cystic teratoma of the ovary	Oncogene	39	3541-3554	2019
Tuna M, Ju Z, <u>Yoshihara K</u> , et al.	Clinical relevance of TP53 hotspot mutations in high-grade serous ovarian cancers.	Br J Cancer	122	405-412.	2019
Sugino K, Tamura R, <u>Yoshihara K</u> et al.	Germline and somatic mutations of homologous recombination-associated genes in Japanese ovarian cancer patients.	Sci Rep.	9	17808	2019

2020年4月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人国立がん研究センター  
所属研究機関長 職名 理事長  
氏名 中釜 斉

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相対は以下のとおりです。

- 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 中央病院 乳腺・腫瘍内科・科長  
(氏名・フリガナ) 田村 研治・タムラケンジ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年4月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 中釜 斉

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び  
ては以下のとおりです。

- 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 先端医療開発センターゲノムトランスレーショナルリサーチ分野・分野長  
(氏名・フリガナ) 土原 一哉・ツチハラカズヤ
- 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年 5月 13 日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名 公益財団法  
所属研究機関長 職 名 理事長  
氏 名 馬田 一

次の職員の平成 30 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利  
いては以下のとおりです。

1. 研究事業名 2020-がん対策-一般-008
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育  
と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) がん研有明病院総合腫瘍科 部長  
(氏名・フリガナ) 高橋 俊二 タカハシ シュンジ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )



厚生労働大臣

殿

機関名 国立大

所属研究機関長 職 名 総長

氏 名 五神

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医科学研究所・教授  
(氏名・フリガナ) 古川 洋一・フルカワ ヨウイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 近畿大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 細井 美

印

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び...については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業（がん政策研究事業）
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・講師  
(氏名・フリガナ) 川上 尚人・カワカミ ヒサト
4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 公立大学法人福島県

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 竹之下 誠一

次の職員の 令和元年度 厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相  
つについては以下のとおりです。

- 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育  
と正しい情報伝達に関する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 医学部 腫瘍内科・主任教授  
(氏名・フリガナ) 佐治重衡・サジシゲヒラ
- 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年4月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法

所属研究機関長 職名 学長

氏名 山崎 光悦

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益  
ては以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育  
と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) がん進展制御研究所腫瘍内科・教授  
(氏名・フリガナ) 矢野 聖二・ヤノセイジ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 3月 31日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人

所属研究機関長 職名 学長

氏名 吉澤靖

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益  
では以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育  
と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医歯学総合研究科・教授  
(氏名・フリガナ) 植竹 宏之 (ウエタケ ヒロユキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年3月31日

厚生労働大臣 殿

機関名 慶應義塾大学  
所属研究機関長 職名 学長  
氏名 長谷山 彰

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・専任講師  
(氏名・フリガナ) 林田 哲・ハシダ テツ
4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大

所属研究機関長 職名 学長

氏名 牛木 辰

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及びについては以下のとおりです。

- 研究事業名 がん対策推進総合研究事業（がん政策研究事業）
- 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究（H30ーがん対策ー一般ー008）
- 研究者名 （所属部局・職名） 医歯学系（産科婦人科学） 助教  
（氏名・フリガナ） 吉原 弘祐（ヨシハラ コウスケ）

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関： )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容： )

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長  
氏 名 國土 典子

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反の管理状況は以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究 (H30-がん対策一般-008)
3. 研究者名 (所属部局・職名) がん総合診療センター乳腺・腫瘍内科 副センター長/医長  
(氏名・フリガナ) 清水 千佳子・シミズ チカコ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。



2020年4月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 中釜 斉

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び不  
ては以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) がん対策情報センター がん医療支援部 部長  
(氏名・フリガナ) 加藤 雅志・カトウマサシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。